

# 令和3年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

②課題:道東畑作地帯における小豆コンバイン収穫適性向上のための系統選抜指針の作成(元~3年度)

代表者:(地独)北海道立総合研究機構 十勝農業試験場研究部 研究主任 堀内優貴

## 目的

小豆の長胚軸性等の草型特性がコンバイン収穫損失に及ぼす影響を明らかにし、コンバイン収穫向け育成系統の選抜指針を作成する。また、これら草型特性に適した栽植様式を明らかにし、加えて、小豆品種系統・遺伝資源の裂莢性難易を明らかにする。

## 成果

### ①コンバイン収穫に適した栽植様式設定

・どの処理区でも標植区より低収となり、多収となる栽植様式は判然としなかった。しかし、「十育180号」は栽植様式によらずコンバイン収穫適性は高いと考えられた。

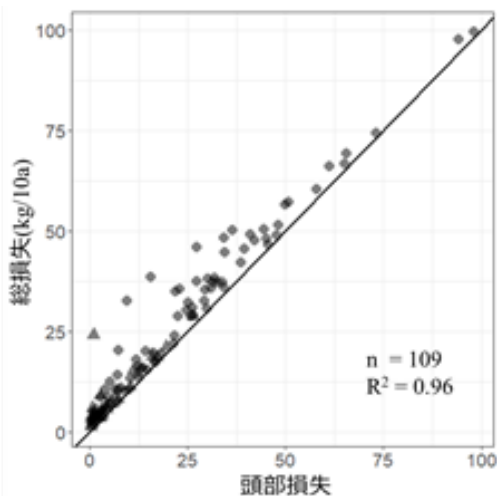
### ②コンバイン収穫損失に及ぼす小豆草型特性の評価および選抜指針の作成

- ・コンバイン収穫時の総損失は、頭部損失と高い相関を示した。また、頭部損失に及ぼす小豆草型特性の評価対象としては、主茎節数、第3節間長、第4節間長、分枝数、0-5cm莢率、5-10cm莢率の計6形質が選択された。
- ・リールヘッダ式コンバイン収穫による小豆の頭部損失については、普通品種に比べて「十育180号」で顕著に少ない傾向があった。

### ③小豆品種の裂莢性評価と難裂性遺伝資源の探索

・R2~R3年で13品種、24育成系統、138遺伝資源を供試し、6点を難裂莢性と判定した。

コンバイン収穫における小豆の総損失と頭部損失との関係



リールヘッダコンバイン収穫における品種系統別小豆の頭部損失

